

スポット

- ・ 理事長挨拶
- ・ 新年の抱負
- ・ 研修報告
- ・ さくら近況報告
- ・ オジャガデザインワークショップ
- ・ 新人紹介

あかつき



笠ヶ岳（新穂高ロープウェイ展望台より）

第68号 2015年1月1日発行

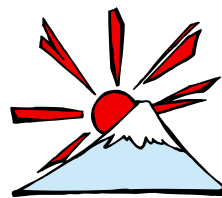
発行／編集 社会福祉法人 あかつきコロニー

〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平 1-64-1

☎ 042-560-7840

<http://www.akatuki.or.jp> Email:soumu@akatuki.or.jp

新年挨拶



理事長

鈴木 賢一



皆様、あけましておめでとうございます。早いもので私がこの年始の挨拶をするのも五年目になりました。これまで私の履歴書のような自身の学歴及び職歴を書いてきましたがそれも去年で終わり、今年はあかつきコロナーで長く行っているオイルエレメント事業と印刷事業について触れたいと思います。

オイルエレメント事業は(株)マールフィルターシステムズから頂いている仕事で、昭和47年に事業が始まり今年で43年目を迎えます。オイルエレメントは自動車のオイルをろ過するフィルターでオイル交換時に一緒に交換する部品です。高度成長期に

伴って生産数も上昇し、昭和63年には売上が6600万円に上りました。その後バブル崩壊やリーマンショック、円高等の影響もありアップダウンを繰り返しながら徐々に生産数も減少し現在では1500万円前後の事業となっています。

売上自体は下がりましたが、作業を行う障害者も当時とは大きく変わり、障害の重度化や多様化で生産能力も落ちており、現在でも障害者の作業種目として貴重な事業です。

昨年不良を出してしまいが迷惑をお掛けしましたが、その後も受注を頂き大変感謝しています。不良の原因は生産管理の甘さ、長年続け

ていると油断が生じるものです。心機一転作業工程を一つ一つ点検し、障害者でも理解できる工夫も行い、関係会社の協力を得ながら生産管理体制の強化を図りました。現在は高い生産管理を維持していくためにISOの取得を目指しているところ

です。心機一転作業工程を一つ一つ点検し、障害者でも理解できる工夫も行い、関係会社の協力を得ながら生産管理体制の強化を図りました。現在は高い生産管理を維持していくためにISOの取得を目指しているところ

売上にまで下がっており厳しい事業運営が続いています。今の日本社会にはまだまだ必要な印刷製品はあるので、売上と経費が合っていないれば何とか続けていきたい事業だと思っています。

話は変わりますが障害者の旅について書いていきたいと思っています。私自身この一年、三回位海外旅行をしており、去年のハワイ旅行の前日、ぎっくり腰になり、痛みもひどく、歩けなくなっていました。なんとか杖をついて成田の航空会社のカウンター迄行きました。事情を説明して、身体障害者手帳を持っていたので、それを出したところ航空会社の対応がとても素晴らしかったのです。まず私の予約した飛行機は満席でしたので、彼等他航空会社に電話をしてくれ、空に座れる座席を探してくれました。成田では約一時間の遅れの出発でしたが、他社の飛行機で出発しました。もう他社に乗り換えたので、自分たちの乗客でもないのにもかかわらず、十分なサービスで対

応してくれました。まず航空会社には荷物を預けると、その後は手荷物の検査を受けなければなりません。それもそれからは車いすに乗せられ、別の入口を通り、そして普通ならば出国検査も受けなければならないのですが、それもフリーパスで通過できました。まるでVIP待遇で偉くなったような気持ちになりました。そして他の航空会社の人に私の事情を説明してくれ、私は出発まで車いすで待っていました。それからは出発カウンターではいつも障害者手帳を見せるようにしています。日本では障害の等級にもよりますが、交通機関の割引制度等、いくつか福祉サービスが利用できますので積極的に活用した方がよいと思います。ハワイではいつも感じるのですが、非常に車いす者が目立ちます。電動車いすはホテルの中まで利用できます。

最後になりますが、あかつきコロナー関係者の方々に、今年も良い年であります事を祈念して終わりにしたいと思います。

新年の抱負

施設長・センター長



常務理事

高橋 毅

明けましておめでとうございます。あかつきコロナーは今年で47年目を迎えます。本年も皆様のご指導、ご協力のもと障害者の就労支援、自立支援に力を注いでいきますのでよろしくお願いたします。

一方規制緩和の流れから、社会福祉法人が実施してきた事業はNPO法人や民間企業でも運営できるようになっており、就労移行支援や就労継続支援A型を実施する企業はかなり増えている現実があります。このような流れの中で私たち社会福祉法人の役割として今後はより重度の障害者支援を実施していく必要があります。

あかつきコロナーは昭和43年に結核回復者の働く施設として開設しましたが、時代の流れと共に障害者福祉のニーズも移り変わり、今では身体障害者、知的障害者、精神障害者の方々が利用する施設となっています。現在125名の障害者が利用されていますが、3障害の比率はほぼ同じとなっており、障害の一元化という意味では実現できている状況です。障害者の対象は変わりました。

が、仕事を通じた障害者の自立支援、工賃の支給責任、一般就労への支援等、私たちのやることは変わりません。ただし障害の多様化、重度化が進む中、支援の内容もそれぞれに対応した形が求められることになり、幅広いスキルが職員に求められています。

以上述べた通り私たちの事業やそれを取り巻く環境やニーズは大きく変わりつつあり、如何に対応していくかが問われています。現在あかつきコロナーでは職員の資質向上を図る目的で資格取得の推奨を行っているところ。また各会議や委員会活動に全職員に参加していただいています。その目的の一つが資質の向上を図っていくことです。そのことはこれまで出来れば良いということではなく、常に向上心を持ち続けることが大切なことであり、今後も継続していく所存です。当法人の理念である「共に働く、共に生きる、共に創る」の

モットーのもと、地域における総合的な障害者の就労支援施設を目指すことを皆様の協力と共に進んでいきたいと思



就労継続支援A型

あかつき作業所

施設長 永井 眞

慎んで新年のご挨拶をもうしあげます。昨年は、社会ではアベノミクスによる日銀の市場への介入から大きく急激な円安が進みました。輸出を中心とした大手企業にとっては景気のいい状態が続き、結果として年末の急な選挙では自民党が大勝し一党多弱の状態がさらに強くなり続きそうです。一方で消費税増税を中心とした景気の悪化は社会の7割を占める中小企業や我々の就労支援事業、障害者の生活を直撃している状態にあります。また障害福祉関係では虐待防止法に続き、差別解消法(平成28年4月施行)も国会で可決し、日本は障

害者権利条約にも批准いたしました。やっと批准したとの印象がありますが、こうやって法整備がされていくことは大きい意味においては前進といえます。その中で我々就労支援関係施設においては、事業、訓練、虐待、差別等様々な微妙な関係の中において、十分な支援がどこまでできるか職員は常に考える機会が多くなっています。さらに差別解消法における合理的配慮とは一般企業とは違う我々がどこまで踏み込むべきか新たな準備・課題を抱えています。毎年のこととなりますが、悩みながら考えながら支援をしていくことが必要と感じる年になることはまちがいないと思

あかつき作業所においては非常に厳しい運営が余儀なくされております。社会的な状況に押され歴史のある印刷事業はここ数年で大きな落ち込みを見せるとともに、昨年10月に参加させていただいた2回目のゼンコロのA型事業のありかた研修会において、社会的な障害者就労支援環境の整備に伴う利用者像の変化の傾向はコロナー全体に着実に及んできており、

現状の所得を維持しながらどのように十分な支援をしていくか等の生産性と支援の関係、職員の質の向上と福祉専門職の配置、ピア・カウンセリングの導入など今までのゼンコロのスタンスを大きく変換する課題が提起されています。まさに当法人におけるA型事業もその状態にあり体制変換をはかりながら維持していくことが可能か模索している状況です。日本における障害者関係の法整備にともない、就労支援系福祉事業も大きな変換をしていくことは確実なのかもしれません。

このような状況がふまえれば就労支援事業、福祉事業活動とも厳しい運営が予想されますが、今年の干支である未年のひとは世話好きでおとなしい外見からは想像がでないほどの情熱と、芯の強さを持っているので組織の中では補佐役や参謀役、あるいは人生の女房役といった裏方できな役割や仕事に適しているそうですが、まさに我々の施設のありようを表しているようなので、この年にあるやり施設としての役割を見失わないよう、健康に留意しながら職員、利用者とも一致団結

したチームワークで乗り切りたいと考えます。本年もどうぞよろしく願います。

就労移行支援
セルブあかつき
施設長 熊谷 昌博

明けまして、おめでとうございます。セルブあかつきの担当になり、2度目のお正月を迎えることとなりました。本年も、よろしく願います。

さて、昨年を振り返ってみました。法人全体を見てみると、法人の8つ目の運営事業として、4月に「指定特定相談支援事業あかつきコロナ相談支援センター」が開所しました。主に、施設利用希望者が受給者証を取得する際及び更新に必要な、サービス等利用計画の策定やその後の定期的なモニタリングを実施しています。また、「スペース・まどか（精神障害者対象）」につきましては、4月より就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型のみ



就労移行支援

セルブあかつき

施設長

熊谷 昌博

の単独施設となりました。

「セルブあかつき」におきましては、事業の目的である就職者を2名、送り出すことができました。しかしながら、もう一方の課題である利用者の獲得につきましては、厳しい結果となりました。3月末の年度替わりに退所者（利用期限満了のためB型施設に移行等）が5名おりましたが、その時点での新規利用者が1名に留まったため、在籍者6名と大幅な減員となっていました。大きな反省点として挙げられます。その対策と「スペース・まどか」の就労移行支援事業廃止に伴い、利用対象者の追加申請を行い、4月より身体障害者・知的障害者の方に加え精神障害者・難病等対象者の方の利用も可能となっています。現在は11名（精神1名）の方が利用され、就労に向けた訓練に日々、真剣に取り組まれています。

さて本年の目標ですが、継続して就職者を出すことと、有期限である就労移行支援施設が常に抱える利用者の獲得が大きな課題となります。関係機関への広報活動を継続していくことはもちろんですが、利用者

の増員を目指すにあたり、今後、精神障害・発達障害の方が増えてくることが予想されることから、訓練プログラムの在り方が問われることになるかと思えます。障害の違いや適性、利用者個別の習熟度等を意識、考慮した訓練プログラムを模索し、構築する必要があると考えています。

最後になりますが、本年も職員一同、利用者本位の支援を心掛けてまいります。よろしく願います。



就労継続支援B型

スペース・まどか

施設長

遠藤 至子

新年あけましておめでとうございます。

昨年も様々なご縁があり、革製品の事業に新たな動きがありました。まず、新規に当事業所の製品をレストランに常設して下さる事になりました。そして、ひよんなことから、ある俳優さんのファンクラブより会

援法に対しては様々な意見が出ていますが、積極的な取り組みが地域に埋もれていた精神障害者を掘り起こし、地域に繋がるのではないかと私は思います。また、精神病院の長期入院の問題に目を向けても、退院促進に向けた数値目標が挙げられ、地域移行を推し進める動きが示されています。精神病棟転換型居住施設系施設の問題も見逃せませんが、これ等の動きは、精神障害の方々の地域に於けるニーズをより一層明確にさせ、そのニーズも益々増えるものと思われまます。その受け皿として、私達は、私達事業所の役割を考えていく必要があると思います。

それは、当事業所の利用者確保の課題とも無関係ではありません。魅力ある事業所作りも、地域への発信力も、私達の現状の取り組みと地域のニーズが一致していなければ、お互いにとつても良い方向には進まないからです。

さてそんな課題も抱えつつ、今年のまどかは、御利用者にかに元気に通所して頂けるかを考えていきたいと思えます。それは、やりがいや意欲とも置

き換えられるかもしれませんが、自信や安心かもしれません。

まどかに関わる人には御利用者も職員も皆、元氣であって欲しい。日々の作業は本当に煩雑で忙しく、ともすればそれに忙殺されてしまいがちですが、まどかに関わる誰もが元氣に楽しく作業に取り組める仕掛け作りを考え、実行していきたいと思っています。

私の拙い文章を最後まで読んで頂きありがとうございます。最後になりますが、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りして年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



就労継続支援B型

瑞穂町福祉作業所さくら

施設長

五十嵐 崇

新年、あけましておめでとうございます。

早いもので、今年でさくらは、5回目の新年を迎えることになりました。これも、さくらを支

えて下さっている関係者、皆様のご協力、ご支援の賜物と思えます。心より感謝申し上げます。今回5回目の新年を迎えていく中で、さくらの更なる発展成長を考えていくためには、この5年間を冷静に評価していくことが必要ではないかと思えます。その中で、さくらの良い所についてもただ継続するというだけではなく、もっと良くしていく方法はないかと考えていくことが大切だと感じます。組織の中での慢心や惰性を排し、常に職員は新しいことを学び、新しいことに挑戦していくことが組織を活性化していく原動力になると思います。

今年度、さくらでは第三者機関による第三者評価を実施しています。最終の評価報告は今年の1月になる予定ですが、そういった第三者評価による評価報告も参考にしながら、更により良いさくらを構築していきたいと思っています。また今年もさくらの利用者、保護者の皆様に喜んでいただける作業所を目指し、職員全員で努力してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今年の当所の目標は3

点あります。1点目は、利用者工賃の増額です。昨年の12月より、現在仕事をいただいている業者より新規の仕事を定期的にいただくことが出来ました。更なる信頼を得ながら、仕事の拡大に努めていきます。2点目は、さくらを利用していただける人数の増員です。現在、30名定員のところ、利用者数は25名です。今年も更に30名定員を目指して関係機関である町役場、障害者就労支援センター、社会福祉協議会、特別支援学校等と連携を取りながらすすめていきます。3点目は、職員の人材育成とリスクマネジメント、権利擁護の強化です。職員の人材育成では、内外の研修を通じて職員のスキルアップをはかり、利用者支援のさらなる充実をはかっていきます。また、言われて動くのではなく自分で考えて動ける人材を目指していきます。そして、リスクマネジメントの強化では更なる「気づき」の視点を常に持って、利用者の安全配慮を常に考えられる人材に一人一人がなっているよう尽力していきます。

大学時代の恩師の言葉に「1日20分の読書と思索の時間を

員証の制作依頼があり、自主製品以外にも作業の幅が広がりました。本当にありがたいお話で今後も長くお付き合いできる様、より良い製品作りを目指していきたいと思えます。

ところで、今年の4月より第4期障害福祉計画がスタートします。これについては市の計画を待つところですが、国の指針によると、29年度までに障害者の一般就労を倍増、就労移行支援事業の利用者数を6割以上増し、一般就労率3割以上の就労移行支援事業所を5割以上に増やす、といった目標が打ち出されています。この数値が障害者の法定雇用率達成を意識して打ち出されたものかはさて置き、その翌年度には精神障害が法定雇用率の基礎算定に加わるという事から、障害者就労施策は今後もより一層推し進められていく事は明白です。

一方、生活困窮者自立支援法が今年の4月に施行されます。こちらも、生活困窮者を一般就労に繋げる取り組みが盛り込まれていますが、生活困窮者とされる人達の中には精神疾患に起因するケースも多く含まれています。生活困窮者自立支

持ちなさい」等の言葉を思い出しました。なかなか忙しいと読書が出来ていない現状もありますが、学んでいないと時代から遅れてしまう感がありますし、また福祉のことも同様だと感じます。私自身、今年一年、まず自分から「学ぶ」ということにこだわっていこうと思えます。自分も成長し、さくらも良い方向に成長出来たらと思います。



武蔵村山市障害者

就労支援センターとらひ

センター長

利根川 正

新年明けましておめでとうございます。

まず始めに昨年を振り返りますと、登録者数は185名となりました。昨年1月と比べると36名の増加になります。「新規

相談者もそろそろ頭打ちになるかな」と毎年のように考えているのですが、毎年25名以上は増加しており、まだまだとらいへのニーズが地域に眠っているように感じています。登録者内訳としては、身体障害者23名（11%）、知的障害者69名（37%）、精神障害89名（48%）、手帳なし10名（4%）となっており、精神障害の方が半数近くを占めています。ただ特別支援学校の卒業生が毎年数名ずつ登録されているので、知的障害者の割合が徐々に高くなっています。

就職者数は27名で、前年と同程度の人数でした。内訳としては清掃が一番多く10名、倉庫内作業3名、事務2名、調理補助2名、アパレル2名、介護、クリーニング、品出し、洗車、ガソリンスタンド等様々な職種へ就職することができました。基本的にはハローワークの障害者求人から就職につながる人が多いのですが、一般の求人広告から会社にお問い合わせるなどして就職できたケースが8名いました。

その他の取組みとして、10月にイオンモールむさし村山にて第5回障害者インターンシップ

が実施され、とらいが事務局を務めました。今回は今までで最多の17の企業にご協力頂き、市内の福祉事業所から23名の方が参加しました。初参加の会社が5社ありましたが、従業員の方々が親切丁寧に対応していただき、皆が楽しんで実習を行なうことができました。また前回から始めた写真展ですが、今回はイオンモール1Fと市民総合センターのロビーの2箇所で開催することができ、沢山の方々

にこの取組みを紹介することができました。今年の抱負としては、武蔵村山市の窓口として来所者への丁寧な対応を心掛けるとともに、とらいのことを身近に感じてもらい、気軽に利用できる雰囲気作りをしていきたいと思っています。また職場開拓にも力を入れ、障害者の方々が働くことができる場所をどんどん増やしていきたいです。

最後にとらい職員のことを皆様に知って頂くためにも、各職員の昨年一番印象に残った出来事をご紹介します。富田さん「1月に次男が高校サッカーで全国大会に出場しました」。稲場さん「中学3年生の次女が

少林寺拳法部で全国大会に出場！団体演技で6位に入賞しました」。細川さん「初めて家族揃って旅行に行くことができました。キャンプ場やディズニールランドに行き、子供も楽しんでいました。」ちなみに私は「8月に捨て犬だったパグを引取り、家族が一人増えました。名前はプータです。」

ということ、今年もどうぞよろしく願います！



瑞穂町障害者
就労支援センター
センター長 岡部 雅之

新年、明けましておめでとうございます。

平成23年12月1日に開所した当センターも4年目を迎えました。昨年の12月に女性職員の入退職がありました、新しい体制でスタートを切っています。

昨年の3月より瑞穂町も計画相談が始まり、より関係機関との関わりが増えてきました。現在、瑞穂町在住の障害を

お持ちの方、84名が登録されています。昨年の年始の時点での登録者数は69名でしたので、当センターの存在が、地域の皆様に浸透してきていると実感しています。

平成26年度の就職者数ですが、7名の方が就職されています。一方、離職者数ですが、残念ながら2名の方が離職されています。町内の企業との関わりもあり、昨年は就労、実習の場として利用できる企業が出来た事がセンターとして収穫でした。今までは、作業評価の実習先が一ヶ所でしたので評価する際に環境が合わない、職種のマッチング、実習時間も考えられませんでした。実習出来る企業が増えた事でより良い評価が出来るようになりました。

日常業務以外の取り組みとしては、8月には余暇活動を行いました。カラオケ・ビンゴ大会を企画し、暑い日でしたので、当日は参加されない方もいるかと思いましたが、12名の方が参加されました。初めて会う方ばかりで皆さん緊張して最初は静かでしたが、会が進みカラオケが始まるころには緊張がほぐれ、皆さん熱唱していました。

中にはデュエットをする方も出てきてとても楽しんで頂けました。普段は交流する事がないので、とてもいい機会になりました。

11月には瑞穂町福祉ふれあいまつり・産業まつりに参加しました。

瑞穂町福祉ふれあいまつりは、センター単独で初参加しました。解らない事ばかりでしたが、職員全員で協力し、センター登録者にもボランティアで参加して頂き無事終えることが出来ました。産業まつりは、前年と同様に瑞穂町福祉作業所さくらと協賛して行いました。行事に参加する事で各関係機関との関係がさらに深まりました。

さて、精神障害者の雇用義務化（2018年4月施行）、最低賃金の改定がありました。障害者の方々には企業からの期待感がますます高まってくると思いますが、今後も地域密着を目指し、ご登録者と企業とのマッチングを考え、双方により良い支援を心掛けて行きたいと考えています。本年もよろしく願います。



給食部主任 神山 明美

「東京都障害者虐待防止・権利擁護研修」が、平成26年11月26日及び12月9日に行われ、障害者福祉施設等の従事者コースを受講しましたので、報告いたします。

障害者虐待防止法は平成24年10月より施行され、2年が経過しました。研修のまず初めに、東京都における障害者虐待防止の現状について、東京都福祉保健局からの話がありました。平成25年度障害者虐待対応状況調査によると、障害者福祉施設従事者による虐待の相談通報は1860件あり、その内、都道府県に上がり、虐待の事実が認められた事例は263件ありました。その半数以上が、身体的虐待で、次いで心理的虐待ということです。また、障害種別では、被虐待者の8割近くが知的障害となっっています。虐待の事実が認められた事例は、市区町村・

受けました。

その後に、2施設からの虐待防止対策の実際についての話がありました。一つは、定員50名、職員28名の生活介護通所施設でした。その施設では、委員会が5つあります。①リスクマネジメント委員会…防災訓練、ヒヤリハット集計、分析を行う。②業務改善委員会…セルフチェック、利用者アンケートについて行う。③広報委員会…広報誌の発行、虐待記事の提供をする。

④環境整備委員会…苦情集計、施設内の点検、消耗品購入を担当する。⑤サービスの質及び虐待防止委員会…①～④委員から代表者2名参加し、隔月開催し、各委員会の検討事項を話し合う。②～④は、職員からの提案により発足したそうです。他に、ミニ研修会として月1回20分程度で実務的な支援内容をテーマに実施されているそうです。実際にやっていることを具体的に分かり易く話があり、様々なエピソードを交えた報告は大変参考になりました。

もう一つの施設からは、施設内で行っている虐待防止対策から、虐待の芽に気づくためのポイントをまとめた話でした。施

設環境が要因となり、職員や利用者が置かれている状況の課題、問題点が混在していること、そして虐待防止対策としての委員会の設置、苦情処理体制の整備、チームで担う職員への援助、虐待防止研修や支援技術研修、チェックリストの活用、ヒヤリハット報告、PDCAサイクル活用、グレイケースの検討等、様々な取り組みが行われている中でも虐待が起きてしまうことがあります。利用者の方のひとり一人の価値観について理解し、言葉や本音を聴きとり、行動の背景、生活背景に着目し、何故、その支援が必要なのかを考えることが大切であると、話されています。虐待防止の奥深さを考えさせられました。

二日目は、グループワークが中心の研修でした。前半は、障害者支援における合理的配慮について、障害の概念や障害者福祉制度の変遷、障害者権利条約、ノーマライゼーションについて話し合いました。その後、グレイゾーンについて考察しました。同じような施設体系でグループ分けがされていたので、話し合いは活発になり、各事業所の状況は大変参考になりました。

また、同じ障害者施設でも施設体系が異なると状況も変わり、現場の支援者の声は、大変興味深く、勉強になりました。支援者が抱えている課題は、とても広範囲にあり、一人で抱え込まないことが大切であると感じました。

最後に、職員の潜在的要因を掲げます。講師からは重要なこととありましたが、納得できる内容でした。①タイムプレッシャー②高い作業負荷③コミュニケーション不足④手順書の不備⑤学習（教育）・訓練不足⑥人手不足⑦危険意識不足⑧効果的な監督不足⑨基本的能力不足⑩不適切な自動化・慣習化。そして、組織の潜在的要因として①経営戦略・方針などの経営層の意思決定②予算配分③採用人員配置④長期、短期計画⑤スケジュール⑥管理・監督体制。以上です。

今回の研修を通して、障害者虐待防止法について理解が深まり、他施設での取り組みの状況を参考に今後の利用者支援に反映させていきたいと感じました。

瑞穂町福祉作業所
さくら近況報告

中見川 久美子

新年あけまして、おめでとう
ございます。

12月に入り、暖冬と予想され
ていた「冬」も予想を裏切り厳
しい寒さになってまいりました。
11月は寒暖の差に体調をくずさ
れた方もいらっしやったのでは
ないでしょうか。

そんな中、さくらでは大きな
イベント参加がこの時期集中し
て行われました。

11月2日には社会福祉協議会
主催の「ふれあい祭り」が開催
されました。

11月8日9日には瑞穂町主催
の「産業祭り」が開催されました。
とても楽しかったです。

11月25日には調布市にある
「菊野台クリニック」による「訪
問健康診断」を実施いたしました。
さくら開設からずっとお世
話になっている訪問による健診
ですが年々スムーズに実施でき
るようになっていきます。昨年出
来なかった検査を受けられるよ
うになった利用者さんを見ると



その成長がとても嬉しく思
いました。又多忙な中、保護
者さまにも参加していただき
た。ご協力本当にありがとうございます。
ございました。

12月6日には社会福祉協議
会主催の「ふれあいカラオケ」
が開催されました。各々が「今
年はコレを歌うの！」と練習
してきた歌を熱唱。いつの間
にか沢山の人が溢れるステー
ジ。全員で唄ったクリスマス
ソング。バンド演奏が始まる
と所せましとステージに出て、
嬉しそうに踊る参加者の皆さ
ん。バンドのメンバーさんの
笑顔もとても印象的で素晴ら
しかったです。ありがとうございます。
6時間に及ぶカラオケ大会



森様は快くお受けしてい
た
だき、既にこれまでに6回の
ワークショップが終了してあり
ます。そして「又、今度も出たい」
「あかつきに初めてこうい
う事をした。楽しかった」「み
んなと作るのは楽しい」「自分
にも出来るんだ」という多くの
声が聞こえてくるようになり
ました。

予定ではあと3回で終了と
なりますが、回を重ねる毎に興
味をもたれるご利用者も増え
ており、のべ50人の方が参加し
体験することが出来ました。

最後の回では有料となりま
すが保護者様を対象とした
ワークショップも企画してあり
ます。是非ご参加いただければ
と思います。

今回のワークショップは、オ
ジヤガデザイン様のご好意とご
協力によって実現したものです
が、将来的にはあかつきコロ
ニーが自前でこのような余暇活
動、豊かな生活作りの一コマを提
供できるよう模索しながら実
現に向けてがんばりたいと思
います。

でも心に響く言葉だと思
います。自分で手作りの物を作
ったという自信や喜びにつな
がり、またチャレンジしたいとい
う目標ができます。自分で身に
付ける喜び、そして「お母さん
にあげる、姉にあげる」とご
利用者自身が家族に対する感謝
の気持ちを表すことの出来る
「世界でひとつの物」とな
ったような気がします。
このようなチャンスをご提
供してくださりオジヤガデザ
イン様には、心より感謝申し上げ
たいと思います。本当にありが
とうございました。
そしてこれからもよろしくお
願い致します。

新人紹介

セルフあかつき 稲持祐也 さん
■私の趣味はダンスです。好きなグループは嵐の5人組です。好きなお笑い芸人はザ・ドリフターズ、めっちゃイケオリジナルメンバー、タカトシ、ガキつか（ガキの使い）メンバーです。好きなのはディズニーキャラクターです。宜しくお願いします。

セルフあかつき 片山卓哉 さん
■8月1日から入所しました。早く作業訓練頑張って一般就職して安定して長く仕事したいです。好きな音楽は、演歌歌手ジェロさんの海雪です。後は、地元羽村出身ロックバンドドリフレンスの大ファンです。よろしくおねがいします。

セルフあかつき 富永洋幸 さん
■はじめまして、8月よりセルフあかつきで、お世話になっています。趣味は野球観戦です。テレビを見ながら、ラジオをつけて、おうえんしています。好きなチームは、埼玉西武ライオンズです。どうぞ宜しくお願いします。

セルフあかつき 古矢 航 さん
■8月にセルフあかつきに入りました。以前セルフを卒業し、仕事につきました。また仕事につけるようにがんばりたいです。

セルフあかつき 保坂 豪 さん
■11月4日にセルフあかつきに入所しました。子供の相手、子供が大好き、車も大好きです。笑顔で明るいぼくです。ぼくを見つけたら声をかけて下さいね。どうぞ宜しくお願いします。

セルフあかつき 野本淳透 さん
■血液型、B型 昭和60年1月4日生まれ 前職は東急ストア三鷹北口店で、10年程、青果部門に所属していました。趣味は音楽鑑賞（軽音楽系・クラシック系）、絵をかくこと、散策、時によっては列車での旅行、読書などです。よろしくお願いします。

作業部2課 森田健太郎 さん
■10月2日より作業部2課でお世話になっております。森田健太郎です。5年ぶりにあかつきに戻ってきました。前回の反省をして今度はがんばります。週に2日間木曜日と金曜日の出勤ですがよろしくお願いします。

作業部1課 鈴木巳幸 さん
■頑張りますのでよろしくお願いします。

作業部2課 渡部孝司 さん
■新人の渡部孝司です。前職は建築関係。家族で自営を営んでおりました。現在は作業2課で在籍して頑張っています。先ばい達迷惑が掛らない様に努力致します。宜しくお願い致します。

瑞穂町障害者就労支援センター支援員 福士瑞木 さん
■12月より瑞穂町障害者就労支援センターにてお世話になっております。1日も早く皆様に快適にお仕事をして頂けるよう、サポートできるように、日々勉強して参ります。宜しくお願い致します。

も無事終了し、後片付けが終
わった後での実行委員長によ
る満面の笑顔での「参加者が
160名を超えました、本当
に嬉しかったです」の言葉に
ボランティアで参加してくだ
さった方々、各施設の職員も
満面の笑みを浮かべ心から成
功を喜び、労い、互いに送る
拍手に本当に頭がさがる思い
と感謝の気持ちでいっぱい
になりました。今年もありが
とうございました。

12月9日には恒例の「さく
ら忘年会」を実施いたしました。
大盛況で終わりました。

そんなさくらでは「予防」「早
期対応」に力を入れ、インフ
ルエンザ・ノロウイルス等の感
染予防への取り組みをしてい
ます。通年「出入口に手指消
毒剤の設置・実施」「作業前後
のうがい・手洗いの実施」「毎
日の次亜塩素酸を使った作業
場他施設全体の消毒」「毎日
の休憩時間でのトイレ清掃」、
11月からは「インフルエンザ予
防接種を受けていただくよう
にお手紙の配布」「昼間は作
業場でのイオン発生機を利用
した空気清浄」「休憩時間毎
の窓を開けての換気」は各作

業場などのオゾン消毒」「職員
への汚物処理の対応の講習」、
12月からは「施設内マスク着
用」「水分補強の設置を麦茶か
ら緑茶へ変更」「大型加湿器の
稼働」など。前年度はインフ
ルエンザ・ノロウイルスの罹患
者は「ゼロ」という実績をあ
げています。

森様からのお話では、今後
近隣の作業所及び施設の方々
にもお手伝いいただくことも
あるだろうということ、ど
の施設でどんな利用者さんが
居て、どのようなことが出来
るか、視察を兼ねた関係性
作りを始めたところだとい
うことでした。

オジヤガデザインの
ワークショップ
2014は法人内で
月1回のワークショップを
行なうことができました

あかつき授産所
副所長 赤星 洋子
2014年7月、あかつき
コロニーに入った1本の電話
からオジヤガデザインの森様
とお付き合いはじまりま
した。
オジヤガデザイン様のホー
ムページを閲覧してみると、
そこには独特な風合いで尚且
つ斬新なデザインの革製品を
たくさん拝見することができ
ます。



主な事柄

7月	9	消防署来所	8月	7	オジヤガデザイン ワークショップ	9月	12	オジヤガデザイン ワークショップ	10月	29	地震非難訓練 (26日迄)	11月	2	瑞穂ふれあいまつり参加 エレベータ点検
	24	床清掃		24	ガス点検		17	自衛消防審査会		3	赤い羽根共同募金 所内旅行(セルプ・三課)		28	理事会・評議員会 火災避難訓練
				17	所内旅行(富士山方面) 床清掃		18	消防設備点検		10	オジヤガデザイン ワークショップ		24	ガスト点検
				23	ガス点検		24	村山5中生職場体験受入 (26日迄)		17	消防設備点検		23	理事会・評議員会 火災避難訓練
				28	理事会・評議員会 火災避難訓練					3	赤い羽根共同募金 所内旅行(セルプ・三課)		28	理事会・評議員会 火災避難訓練
7月	6	空調切替 第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)	8月	21	マールフィルター システムズ監査	9月	15	オジヤガデザイン ワークショップ	10月	10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)	11月	5	就労プロジェクトセミナー (高橋・利根川)
	7	第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)		14	オジヤガデザイン ワークショップ		12	夏期休暇(15日迄)		3	ゼンコロ運営委員会 (高橋 4日迄)		11	権利擁護虐待研修(2名) (高橋・利根川)
	8	瑞穂産業祭参加(9日迄)		30	社協フェスタ参加		26	エレベータ点検		17	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		12	東社協総会(高橋)
	9	消防署来所		27	知的部会学習会(西出)		28	第三者評価職員説明会 (あかつき授産所)		10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)		13	セルプ協ウエス部会研修 (押川 14日迄)
										3	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		16	クリーニング業務従事者 講習会(戸村)
7月	6	空調切替 第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)	8月	21	マールフィルター システムズ監査	9月	15	オジヤガデザイン ワークショップ	10月	10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)	11月	5	就労プロジェクトセミナー (高橋・利根川)
	7	第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)		14	オジヤガデザイン ワークショップ		12	夏期休暇(15日迄)		3	ゼンコロ運営委員会 (高橋 4日迄)		11	権利擁護虐待研修(2名) (高橋・利根川)
	8	瑞穂産業祭参加(9日迄)		30	社協フェスタ参加		26	エレベータ点検		17	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		12	東社協総会(高橋)
	9	消防署来所		27	知的部会学習会(西出)		28	第三者評価職員説明会 (あかつき授産所)		10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)		13	セルプ協ウエス部会研修 (押川 14日迄)
										3	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		16	クリーニング業務従事者 講習会(戸村)

出張・研修

7月	6	空調切替 第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)	8月	21	マールフィルター システムズ監査	9月	15	オジヤガデザイン ワークショップ	10月	10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)	11月	5	就労プロジェクトセミナー (高橋・利根川)
	7	第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)		14	オジヤガデザイン ワークショップ		12	夏期休暇(15日迄)		3	ゼンコロ運営委員会 (高橋 4日迄)		11	権利擁護虐待研修(2名) (高橋・利根川)
	8	瑞穂産業祭参加(9日迄)		30	社協フェスタ参加		26	エレベータ点検		17	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		12	東社協総会(高橋)
	9	消防署来所		27	知的部会学習会(西出)		28	第三者評価職員説明会 (あかつき授産所)		10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)		13	セルプ協ウエス部会研修 (押川 14日迄)
										3	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		16	クリーニング業務従事者 講習会(戸村)
7月	6	空調切替 第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)	8月	21	マールフィルター システムズ監査	9月	15	オジヤガデザイン ワークショップ	10月	10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)	11月	5	就労プロジェクトセミナー (高橋・利根川)
	7	第三者評価訪問調査 (あかつき授産所)		14	オジヤガデザイン ワークショップ		12	夏期休暇(15日迄)		3	ゼンコロ運営委員会 (高橋 4日迄)		11	権利擁護虐待研修(2名) (高橋・利根川)
	8	瑞穂産業祭参加(9日迄)		30	社協フェスタ参加		26	エレベータ点検		17	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		12	東社協総会(高橋)
	9	消防署来所		27	知的部会学習会(西出)		28	第三者評価職員説明会 (あかつき授産所)		10	精神授産連総会(遠藤) 第八小学校運営協議会 (高橋 4日迄)		13	セルプ協ウエス部会研修 (押川 14日迄)
										3	ゼンコロ生活介護研修 (高橋 18日迄)		16	クリーニング業務従事者 講習会(戸村)

入所・退所

入所

退所

編集後記

連日寒い日が続き、雨も少ないため空気も乾燥し、インフルエンザも通年より早く流行しています。あかつきコニーでも例外ではなく感染者が出ています。インフルエンザは飛沫感染が主です。なるべく人混みは避けるようにして、うがい、手洗いをこまめに行い予防に努めていきましょう。

(T)